

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	道路管理事業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	4	市道	建設課
SDGs目標	9	産業と技術革新の基盤をつくろう						管理係		

1. 事業の概要(Plan)

目的	市民及び市道利用者が市道を安全に利用できるよう維持管理を行う。				
内容	市道の補修、通行規制、許認可、境界確認、道路構造物の維持管理及び道路台帳の整備				
種別	自治事務(義務あり)	主体	直営	対象・受益者	市民・道路利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	道路の点検・補修	道路の点検及び修繕の必要性がある要望への対応	目標	100	100	100	%
		実績	100	100			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	道路管理瑕疵による事故件数	市道の管理瑕疵による事故件数	目標	0	0	0	件
		実績	1	12			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	2 道路橋梁費	目	2 道路維持費				
事業費(千円)	R1	決算額	R2	決算額	R3	決算額	R4	予算額	R5	予算額	R6	予算額
総事業費		113,200		87,370		110,892		102,530		102,530		102,530
事業経費		101,800		75,970		99,492		91,130		91,130		91,130
特定財源		15,312		7,150		14,088		7,205		0		0
従事常勤職員数		1.50		1.50		1.50		1.50		1.50		1.50
従事非常勤職員数												
概算人件費		11,400		11,400		11,400		11,400		11,400		11,400

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	市民生活に大きく影響する
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	事業の性質上、民間委託はできない
	有効性	指標の実績	達成できなかった	予防保全への移行
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	道路・構造物の老朽化により削減は難しい
総合評価	費用対効果	効果あり	費用をかけた分、効果がある	
	手段の妥当性	見直しの余地あり	予防保全への移行	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	市民からの要望件数が、毎年800件以上あり、職員が対応に追われている。自治会等が主体になって行ってきた側溝清掃等が困難になってきている。橋梁の長寿命化に伴う修繕工事に莫大な費用を要している。年に複数回冠水する道路がある。また、道路台帳図をデジタル化する必要がある。
今後の取組み	集落内の側溝清掃や除草及び樹木の伐採等の作業については、市民に積極的に協力を促す一方、市民が対応できない業務については、市が行う。通行量の少ない橋梁・踏切等は、近接する施設と統合するなどして、廃止に努める。道路の冠水防止対策に取り組む。道路台帳図のデジタル化を令和4年度から進める。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	法定外公共物管理事務						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	4	市道	建設課
SDGs目標	9	産業と技術革新の基盤をつくろう						管理係		

1. 事業の概要(Plan)

目的	法定外公共物(道路・水路)についての管理や利用状況に応じた処分を行うことにより使用者及び公共の利益に寄与する。				
内容	国から譲与(H16.4.1)を受けた市有財産(道路・水路)について、利用状況に応じた使用収益許可及び用途廃止(普通財産として市財政課へ移管)を行う。				
種別	自治事務(義務あり)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明		年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	許可件数	法定外公共物使用許可をした件数		目標	600	650	650	件
			実績	558	603			
成果指標	指標名	説明		年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	収入額	法定外公共物使用料金収入額		目標	1,046	1,048	6,216	千円
			実績	1,126	4,046			
予算科目	区分	款	項	目				
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	6,840	6,840	6,840	6,840	6,840	6,840		
事業経費	0	0	0	0	0	0		
特定財源	0	0	0	0	0	0		
従事常勤職員数	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90		
従事非常勤職員数								
概算人件費	6,840	6,840	6,840	6,840	6,840	6,840		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性		
		対象の適切性		
		主体の妥当性	市が推進すべき	行政上の専門知識を必要とするため
	有効性	指標の実績		
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	歳出なし
総合評価	費用対効果			
	手段の妥当性	妥当		当市の人口規模では効率が良いため
	事業の方針			

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	市法定外公共物管理条例に基づき、利用者から使用料を徴収しているが、徴収額が少額の利用者の場合、徴収事務費と照らし合わせて効率が悪い。
今後の取組み	受益者の公平性と事務手続きの簡素化の観点から、法定外公共物管理条例を見直すことを検討する。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	道路用地取得事務事業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	4	市道	建設課
SDGs目標	9	産業と技術革新の基盤をつくろう						管理係		

1. 事業の概要(Plan)

目的	道路用地取得事務事業				
内容	道路用地取得事務事業				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	道路利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	用地取得に係る土地の筆数	道路整備事業計画地における用地の契約件数。	目標				筆
実績			7	6			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	用地取得に係る登記申請数	道路整備事業計画地において、地権者との用地交渉の結果、土地登記が完了した件数。寄付申出を受理した件数。	目標				筆
実績			36	24			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	2 道路橋梁費	目	3 道路新設改良費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800		
事業経費	0	0	0	0	0	0		
特定財源	0	0	0	0	0	0		
従事常勤職員数	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50		
従事非常勤職員数								
概算人件費	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	道路網の充実是人・物の交流を促進する
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	政策的意思決定を必要とするため
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	嘱託登記のため費用の発生なし
総合評価	費用対効果	効果あり	道路網の充実是人・物の交流を促進する	
	手段の妥当性	妥当		
	事業の方針	継続		

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	なし
今後の取組み	安全で快適な道路網を整備するため、必要な道路用地を土地所有者から購入し、登記手続きを行う。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	河川・排水樋管の管理事務						建設部				
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	7	河川	建設課	
SDGs目標	2	飢餓をゼロに		6	安全な水とトイレを世界中に		14	海の豊かさを守ろう			管理係

1. 事業の概要(Plan)

目的	流域河川(鬼怒川・小貝川)の維持管理を通じて、河川環境の保全・再生と河川利用者の便益向上を図る。				
内容	国・県からの占用物件の管理及び流域河川環境の保全や自然災害時へ連絡体制の構築を図る。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	排水樋管保全のための委託	国・県・市の排水樋管の点検委託数	目標	18	18	18	件
		実績	18	18			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	排水樋管の点検回数	国から委託を受けている排水樋管および市の排水樋管の点検回数	目標	306	306	306	回
		実績	306	306			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	3 河川費	目	1 河川総務費
------	----	------	---	-------	---	-------	---	---------

事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額
総事業費	18,104	17,168	17,570	18,609	18,609	18,609
事業経費	12,024	11,088	11,490	12,529	12,529	12,529
特定財源	4,995	4,303	4,418	4,990	4,990	4,990
従事常勤職員数	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80
従事非常勤職員数						
概算人件費	6,080	6,080	6,080	6,080	6,080	6,080

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	事業を廃止した場合、市民生活に深刻な影響が発生する
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	行政上の専門知識を必要とするため
	有効性	指標の実績	達成できた	想定通りのサービスを提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地あり	事業費や人件費などの削減の余地あり
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた	
	手段の妥当性	妥当	変更する余地はない	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	準用河川の管理者は、台帳を整備しておく必要があるが、現在は準用河川台帳がない。(市管内の準用河川:宇坪谷川、尻手川、木田川)
今後の取組み	準用河川台帳の整備を検討する。流域河川(鬼怒川・小貝川)の維持管理を通じて、河川環境の保全・再生と河川利用者の便益向上を図る。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	合併特例債事業(南部環状線)						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	4	市道	建設課
SDGs目標	9	産業と技術革新の基盤をつくろう						工務係		

1. 事業の概要(Plan)

目的	合併特例債事業(南部環状線)				
内容	国道294号から都市計画道路大貝下川原線とを結ぶ約3,800mの幹線道路を整備する。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	道路利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	道路利用者	(単年度累計事業費/全体事業費)	目標	45	48	50	%
		実績	44	47			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	国道～都市計画道路へのアクセス時間の短縮	市南東部と南西部を結ぶ幹線道路の整備により、アクセス時間の短縮	目標	—	—	—	分
		実績	—	—			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	2 道路橋梁費	目	3 道路新設改良費				
事業費(千円)	R1	決算額	R2	決算額	R3	決算額	R4	予算額	R5	予算額	R6	予算額
総事業費		32,895		109,039		147,086		76,236		104,636		104,636
事業経費		28,259		104,403		142,450		71,600		100,000		100,000
特定財源		26,800		102,700		138,220		68,700		96,800		96,800
従事常勤職員数		0.61		0.61		0.61		0.61		0.61		0.61
従事非常勤職員数												
概算人件費		4,636		4,636		4,636		4,636		4,636		4,636

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	市南部の渋滞緩和、交通ネットワーク網の形成
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	市主導により目標実現が図られる
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	
総合評価	費用対効果	効果あり		
	手段の妥当性	妥当		
	事業の方針	継続		現状維持

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	国営水路の横断部工事に伴う占用協議、関東鉄道常総線沖踏切の拡幅協議、八間堀川橋梁の実施協議等に不測の日数を要する。 県道谷和原筑西線との交差点部では、店舗及び建物が補償対象となっており、買収直近での補償算定業務が必要である。
今後の取組み	令和元年度(補正)より国の補助金活用を開始しており、これを継続していく。 東側から連続性をもって工事が進められるように、用地を買収する。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	道路新設改良事業(単独分)						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	4	市道	建設課
SDGs目標	9	産業と技術革新の基盤をつくろう						工務係		

1. 事業の概要(Plan)

目的	人優先の立場から安全で円滑な道路作りを目指すとともに、集落間の連絡機能の改善と防災上の障害を解消するため、道路整備を推進する。				
内容	排水整備工事、舗装改良工事、道路拡幅改良工事				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	道路利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	道路新設改良延長	排水・改良工事の整備延長	目標	993	752	1,330	m
		実績	798	866			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	道路改良整備率	(整備実績延長/整備計画延長)	目標	100	100	100	%
		実績	80	115			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	2 道路橋梁費	目	3 道路新設改良費				
事業費(千円)	R1	決算額	R2	決算額	R3	決算額	R4	予算額	R5	予定額	R6	予定額
総事業費		57,381		88,916		72,722		95,840		68,740		68,740
事業経費		48,641		80,176		63,982		87,100		60,000		60,000
特定財源		43,400		63,800		32,500		18,000		54,000		54,000
従事常勤職員数		1.15		1.15		1.15		1.15		1.15		1.15
従事非常勤職員数												
概算人件費		8,740		8,740		8,740		8,740		8,740		8,740

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	市民の安全・快適な生活環境を確保する基幹事業のため
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	政策的意思決定が必要なため
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	ほぼ計画どおりの整備ができた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	委託費用を削減するため職員で測量・設計・積算を実施している
総合評価	費用対効果	効果あり		最小の経費で指標の目標を達成できた
	手段の妥当性	妥当		測量・設計・積算を民間委託することは可能だがコストアップとなり非効率である
	事業の方針	継続		現状維持

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	年々市民からの整備要望が多種多様化しており、個別のニーズに迅速に対応することが困難な状態が続いている。また、事業予算の確保が年々厳しい状況である。
今後の取組み	事業箇所等については、事業効果の見込める事業に絞り、工法手法等十分に検討した上で、経済性・安全性を考えながら事業に着手していく。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	道路新設改良事業(合併市町村幹線道路緊急整備支援事業 南原・平川戸線)						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	4	市道	建設課
SDGs目標	9	産業と技術革新の基盤をつくろう								工務係

1. 事業の概要(Plan)

目的	市内幹線道路網の整備により、工業団地及び市内観光拠点へのアクセス向上を図る	
内容	市内大木地内から県道谷和原筑西線の区間2,000mの道路整備を実施し、令和2年度の全線開通を目指す。	
種別	自治事務(任意)	主体 直営 対象・受益者 道路利用者・工業団地

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	年間事業進捗率	(単年度累計事業費/全体事業費)		目標	100	100	100
			実績	100	100		
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	主要観光ポイント間到達時間の短縮	道の駅~ピアスパークしもつま間のアクセス向上	目標	-	6	6	分
			実績	-	6		

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	2 道路橋梁費	目	3 道路新設改良費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予算額	R6予算額		
総事業費	231,938	62,457	0	0	0	0		
事業経費	224,338	54,857	0	0	0	0		
特定財源	214,470	52,500	0	0	0	0		
従事常勤職員数	1.00	1.00						
従事非常勤職員数								
概算人件費	7,600	7,600	0	0	0	0		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性はなくなっている	令和2年度に全線開通済み
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	市主導により目的実現が図られる
	有効性	指標の実績	達成できた	想定どおりの目標を達成することができた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	交付金を活用している
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた	
	手段の妥当性	妥当	この事務事業以外に方法はない	
	事業の方針	完了・達成	令和2年度に全線開通したため事業終了	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	市道205号線との交差点において、通学路になっていることから信号機設置を要望しているが、県内の設置要望箇所が多いため設置時期については未定となっている。
今後の取組み	引き続き茨城県警に要望していく。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	市道4093号線歩道整備事業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	4	市道	建設課
SDGs目標	9	産業と技術革新の基盤をつくろう						工務係		

1. 事業の概要(Plan)

目的	子どもの安心・安全な登下校ができるよう通学路交通安全対策として、歩道整備を実施する。					
内容	市道を拡幅し歩道整備を実施する。					
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	道路利用者	

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	事業進捗率	(単年度事業費/全体事業費)	目標			25.53	%
		実績		12.82			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	歩道整備	児童生徒の安全確保のため、市道を拡幅し、幅員2mの歩道を整備する。	目標				
			実績				

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	2 道路橋梁費	目	3 道路新設改良費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	0	0	7,947	12,000	23,800	0		
事業経費	0	0	4,147	8,200	20,000	0		
特定財源	0	0	3,800	2,575	19,100	0		
従事常勤職員数			0.50	0.50	0.50			
従事非常勤職員数								
概算人件費	0	0	3,800	3,800	3,800	0		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	令和5年度整備完了予定
		対象の適切性	適切	対象を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	政策的意思決定を必要とするため
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	
	効率性	コストの削減	削減の余地あり	交付金を活用している
総合評価	費用対効果	効果あり		
	手段の妥当性	妥当		
	事業の方針	継続		2023年度事業終了予定

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	当該路線において、公共下水道布設工事計画があるため、工事工程スケジュールについて庁内で十分に協議を重ねていく必要がある。
今後の取組み	令和5年度の整備工事のための用地測量及び用地買収。



令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	道路維持修繕事業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	4	市道	建設課
SDGs目標	9	産業と技術革新の基盤をつくろう						工務係		

1. 事業の概要(Plan)

目的	人優先の立場から安全で円滑な道路作りを目指すとともに、集落間の連絡機能の改善と防災上の障害を解消するため、道路整備を推進する。					
内容	側溝整備工事、舗装修繕工事、道路改修工事					
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	道路利用者	

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	道路改修等延長	損傷した道路及び老朽化した側溝等の改修整備延長	目標	825	2,443	1,540	m
		実績	941	2,568			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	要望処理件数	自治会等からの要望処理件数	目標	5	10	10	件
		実績	5	10			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	2 道路橋梁費	目	2 道路維持費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	37,657	39,319	83,198	79,160	130,160	130,160		
事業経費	25,497	27,159	71,038	67,000	118,000	118,000		
特定財源	0	0	41,400	41,775	76,450	76,450		
従事常勤職員数	1.60	1.60	1.60	1.60	1.60	1.60		
従事非常勤職員数								
概算人件費	12,160	12,160	12,160	12,160	12,160	12,160		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	事業休廃止した場合、自治区からの要望対応困難
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	政策的意思決定が必要なため
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	ほぼ計画どおりの整備ができた
	効率性	コストの削減	削減の余地あり	委託費用を削減するため職員で測量・設計・積算を実施している
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた	
	手段の妥当性	見直しの余地あり	事業効果のある整備要望の精査が必要	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	年々住民からの整備要望が増加しており、迅速な対応が出来ない状態が続いている。また、舗装の破損が市内で多く見受けられ、全体的な舗装修繕を計画的に実施する必要がある。
今後の取組み	工事手法の見直しを図るとともに、要望の優先順位並びに費用対効果を検討し、事業の効果的な実施を図る。また、全体的な舗装修繕箇所を調査し、計画的に舗装修繕計画を立てていく。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	用排水路管理事業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	8	排水路	建設課
SDGs目標	9	産業と技術革新の基盤をつくろう						工務係		

1. 事業の概要(Plan)

目的	市民が安心安全に生活できる用排水路の整備				
内容	排水路整備工事				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	排水路整備延長	排水路の整備延長	目標	30	28	90	m
		実績	32	26			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	要望処理券数	自治会からの要望処理件数	目標	1	1	3	件
		実績	1	1			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	3 河川費	目	2 用排水路費				
事業費(千円)	R1	決算額	R2	決算額	R3	決算額	R4	予算額	R5	予算額	R6	予算額
総事業費	6,989	6,670	6,538	12,040	7,040	7,040						
事業経費	3,949	3,630	3,498	9,000	4,000	4,000						
特定財源	0	0	0	0	0	0						
従事常勤職員数	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40						
従事非常勤職員数												
概算人件費	3,040	3,040	3,040	3,040	3,040	3,040						

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	事業を休廃止した場合、市民生活に影響が発生する
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	政策的意思決定を必要とするため
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	ほぼ想定どおりのサービスを提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	委託費用を削減するため職員で測量・設計・積算を実施している
総合評価	費用対効果	効果不十分	最小の経費で指標の目標を達成できた	
	手段の妥当性	見直しの余地あり	事業効果のある整備要望の精査が必要	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	材料費の高騰によりコストが高くなってしまふ
今後の取組み	工事手法の見直しを図るとともに、要望の優先順位並びに費用対効果を検討し、事業の効果的な実施を図る。また、排水路の老朽化対策について、検討していく。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	橋梁維持事業(工事)						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	4	市道	建設課
SDGs目標	9	産業と技術革新の基盤をつくろう						工務係		

1. 事業の概要(Plan)

目的	橋梁維持事業(工事)				
内容	高堀橋(架替工事)、豊原橋(修繕工事)、左内橋(修繕工事)、水神橋(修繕工事)外				
種別	自治事務(義務あり)	主体	直営	対象・受益者	橋梁利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	橋梁利用者	(単年度累計工事費/全体工事費)	目標	26	78	100	%
		実績	25	77			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	基準に適合する橋梁	工事完了すれば、安全基準を満たした橋梁となる	目標	—	—	—	—
		実績	—	—			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	2 道路橋梁費	目	4 橋梁維持費				
事業費(千円)	R1決算額		R2決算額		R3決算額		R4予算額		R5予定額		R6予定額	
総事業費	115,340		88,929		77,854		55,971		10,400		33,800	
事業経費	111,540		85,129		74,054		52,171		6,600		30,000	
特定財源	108,058		78,154		66,132		47,324		6,230		28,600	
従事常勤職員数	0.50		0.50		0.50		0.50		0.50		0.50	
従事非常勤職員数												
概算人件費	3,800		3,800		3,800		3,800		3,800		3,800	

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	
		対象の適切性	適切	
		主体の妥当性	市が推進すべき	
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	
総合評価	費用対効果	効果あり		
	手段の妥当性	妥当		
	事業の方針	継続	橋梁点検結果が判定Ⅲとなった場合に橋梁の修繕を実施	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	豊原橋護岸補修工事が事故繰越工事となっている。 渇水期(11月~5月)しか工事が出来ない。 占用許可工事のため、河川事務所へ申請が必要。
今後の取組み	占用許可申請を行い、渇水期早々に工事着手できるようにする。 別事業であるが、隔年(5年に1回)で行われる橋梁点検結果により、適切な維持管理を行うことで安全な橋梁となりライフサイクルコストの圧縮及び長寿命化が可能となる。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	市営住宅の維持管理業務						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	1	住宅、宅地	建設課
SDGs目標	11	住み続けられるまちづくりを						建築係		

1. 事業の概要(Plan)

目的	市営住宅の適切な維持管理を行い、入居者が住みやすい環境を整えることで、市営住宅の円滑な運営を図る。				
内容	市営住宅の修繕や住宅施設(浄化槽、受水槽等)の保守点検業務委託を予算の範囲内で適切に行う。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	浄化槽、受水槽、消防設備の保守点検の回数	市営住宅毎に浄化槽、受水槽、消防設備の点検等を実施した回数	目標	122	122	122	回
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	浄化槽、受水槽、消防設備の修繕回数	浄化槽、受水槽、消防設備の不備ゼロを目指す。	目標	0	0	0	件
実績			実績	122	122		
実績			実績	4	3		

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	5 住宅費	目	1 住宅管理費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	19,758	19,516	19,300	19,578	19,578	19,578		
事業経費	13,678	13,436	13,220	13,498	13,498	13,498		
特定財源	0	0	0	0	0	0		
従事常勤職員数	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80		
従事非常勤職員数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
概算人件費	6,080	6,080	6,080	6,080	6,080	6,080		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	入居者が快適に生活できなくなるため
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	アウトソーシング可能	行政上の専門知識を必要としないため
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	想定どおりの維持管理ができています
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	施設の老朽化を考慮すると現状が最低経費である
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で目標達成できた	
	手段の妥当性	妥当	家賃補助等への切替の検討必要あり	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	市営住宅は新しい建物でも20年以上経過しており、全体的に老朽化していることから、近年、維持管理費が増加している。
今後の取組み	R2年度に策定した市営住宅長寿命化計画に則り、市営住宅の長寿命化を図るとともに大規模改修が必要となる建物や維持管理費用が増大になる建物は、政策住宅へ移行(除却)や家賃補助への切替等も含め検討する必要がある。建築年数が60年以上経過した新堀住宅と本宿住宅については、今年度中に除却する予定である。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	市営住宅家賃滞納対策事業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	1	住宅、宅地	建設課
SDGs目標	11	住み続けられるまちづくりを						建築係		

1. 事業の概要(Plan)

目的	市営住宅入居者に対し、市営住宅管理条例で定めた家賃等の負担を求め、市営住宅の円滑な運営を図る。				
内容	入居者の家賃等を指定金融機関から口座振替する等して家賃等を収納する。また、家賃等未納者に対しては、電話や個別訪問により督促を行う。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	滞納整理の回数	家賃等の高額滞納者等に対する滞納整理回数(夜間及び早朝)	目標	6	6	6	回
		実績	8	4			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	現年分家賃等の収納率	入居者の家賃、共益費、駐車場使用料の現年分収納率	目標	100	100	100	%
		実績	97	97			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	5 住宅費	目	1 住宅管理費
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額		
総事業費	5,907	5,913	5,908	7,100	7,100	7,100		
事業経費	587	593	588	1,780	1,780	1,780		
特定財源	0	0	0	0	0	0		
従事常勤職員数	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70		
従事非常勤職員数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
概算人件費	5,320	5,320	5,320	5,320	5,320	5,320		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	滞納者がいる現状では必要性が高い
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	アウトソーシング可能	家賃等は私債権であることから、法的な見地も必要
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	想定した成果が上げられた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	現状が最低限の経費であるため
総合評価	費用対効果	効果あり	滞納者に対し、納付の意識づけが出来ている	
	手段の妥当性	見直しの余地あり	民間事業者や弁護士に任せられる業務あり	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	住宅使用料等の滞納については、「きちんと納めなければならない」という意識が欠如している者が増加しているように思われる。また、市営住宅への入居者は低所得者である場合が多く、納付可能かどうかの見極めが難しい。
今後の取組み	家賃等未納時の初期段階での滞納阻止が重要であるため、初期段階で電話や戸別訪問を実施し、納付の意識を高める。悪質な滞納者に対しては、法手続き(家賃請求及び明渡請求)を積極的に実施し、滞納者の根絶を図っていく。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	住宅新築資金等貸付事業の貸与償還事務						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	1	住宅、宅地	建設課
SDGs目標	10	人や国の不平等をなくそう		11	住み続けられるまちづくりを					建築係

1. 事業の概要(Plan)

目的	地域改善対策事業として貸付けた住宅新築資金等の貸付者からの償還				
内容	地域改善対策事業として貸付けた住宅新築資金等の貸付者からの償還処理事務				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	貸付金の償還督促通知回数	住宅新築資金等の貸付金の償還督促に係る通知を、貸付者に対し送付した回数	目標	2	2	2	回
		実績	2	2			

  

成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	貸付金の償還率	住宅新築資金等の貸付金の償還率	目標	70	70	70	%
		実績	65	65			

予算科目	区分	一般会計	款	項	目							
事業費(千円)	R1	決算額	R2	決算額	R3	決算額	R4	予算額	R5	予定額	R6	予定額
総事業費		1,520		1,520		1,520		1,520		1,520		1,520
事業経費		0		0		0		0		0		0
特定財源		0		0		0		0		0		0
従事常勤職員数		0.20		0.20		0.20		0.20		0.20		0.20
従事非常勤職員数		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00		0.00
概算人件費		1,520		1,520		1,520		1,520		1,520		1,520

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	貸付金償還が完了していない
		対象の適切性	改善の余地あり	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	行政上の専門知識を必要とするため
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	ほぼ想定通り収納することができた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	現状が最低限の費用である
総合評価	費用対効果	効果あり		最低の経費での指標の目標は達成できている
	手段の妥当性	見直しの余地あり		茨城県や他市の状況を踏まえ、貸付金の償還率の向上を目指す
	事業の方針	継続		現状維持

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	貸付後、時間の経過とともに償還意志の欠如、本人死亡、行方不明など様々な理由で償還が進んでいない。
今後の取組み	滞納者の現状把握に努める。償還については督促通知はもとより、茨城県や他市の状況を踏まえながら、法的な手段を含む他の方法での督促についても検討し、償還率の向上を目指していく。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	宅地開発事業に関する事務						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	1	住宅、宅地	建設課
SDGs目標	9	産業と技術革新の基盤をつくろう	11	住み続けられるまちづくりを						建築係

1. 事業の概要(Plan)

目的	宅地開発事業の基準等を定め適正な施行を確保することにより、良好な居住環境の整備と災害の防止を図る。				
内容	宅地開発事業の許可(協議)申請について、審査を行い県に意見書等を交付する。工事完了後には、完了検査を行う。				
種別	自治事務(義務あり)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	審査会審査件数	下妻市宅地開発審査会への審査件数	目標	5	6	6	件
		実績	10	7			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	工事完了検査の実施件数	工事完了後、設計適合の可否についての検査を実施した件数	目標	5	6	6	件
		実績	9	7			

予算科目	区分	款	項	目		
事業費(千円)	R1決算額	R2決算額	R3決算額	R4予算額	R5予定額	R6予定額
総事業費	6,080	6,080	6,080	6,080	6,080	6,080
事業経費	0	0	0	0	0	0
特定財源	0	0	0	0	0	0
従事常勤職員数	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80
従事非常勤職員数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
概算人件費	6,080	6,080	6,080	6,080	6,080	6,080

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	市民生活に深刻な影響が発生する可能性がある
		対象の適切性	適切	指導対象は、開発事業主及び施工者
		主体の妥当性	市が推進すべき	事業計画に係る本市としての意見が求められる
	有効性	指標の実績	達成できた	協議申請のあった事業計画は、全て審査会において審査した。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	現状が最低限の経費
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標目標を達成できた	
	手段の妥当性	妥当	無秩序な宅地開発を抑制できる	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	宅地開発事業者からの事前協議には、専門業者への指導となり、指導内容が事業費にも直結するため、開発技術基準の把握及び経験を要する難しい業務であるが、適切な人員配置がされていない。
今後の取組み	宅地開発事業者に対し、法律及び市要綱等を遵守した事業計画策定及び工事施工を徹底指導する。

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	道の駅しもつま施設管理事務						建設部	
総合計画の体系	目標	3	観光、産業振興	基本	2	観光、商工業、企業誘致、地域支援	建設課	
					分野	4	地域資源活用、産業創造	
SDGs目標	11	住み続けられるまちづくりを						建築係

1. 事業の概要(Plan)

目的	道の駅しもつまの施設管理事務を行うことにより、利用者の増加、利用者のサービスの向上を目的とする。				
内容	道の駅しもつまの行政窓口として施設管理事務を行う。				
種別	自治事務(任意)	主体	指定管理	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	イベント実施回数	指定管理者が実施したイベント実施回数	目標	25	25	25	日間
		実績	10	26			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	施設利用者数	道の駅しもつまの年間利用者数	目標	700,000	650,000	650,000	人
		実績	611,591	633,119			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	2 道路橋梁費	目	2 道路維持費	
事業費(千円)	R1決算額		R2決算額		R3決算額		R4予算額	R5予定額	R6予定額
総事業費	8,969		8,562		5,647		5,540	6,040	6,040
事業経費	5,929		5,522		2,607		2,500	3,000	3,000
特定財源	0		0		0		0	0	0
従事常勤職員数	0.40		0.40		0.40		0.40	0.40	0.40
従事非常勤職員数	0.00		0.00		0.00		0.00	0.00	0.00
概算人件費	3,040		3,040		3,040		3,040	3,040	3,040

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	地域交流拠点施設及び道路利用者の憩いの場として必要
		対象の適切性	適切	黒字維持
		主体の妥当性	アウトソーシング済(一部)	民間の経営手法を必要とするため
	有効性	指標の実績	達成できた	期待通りの成果を上げている
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	現状が最低限の経費
総合評価	費用対効果	効果あり		最小の経費で指標の目標を達成できた
	手段の妥当性	妥当		黒字維持
	事業の方針	継続		指定管理期間中(令和7年度まで)

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	アフェル後、施設利用者数は年間1万人をマークしていたが、新型コロナウイルスの影響で、約61万人にまで下がった。現在回復傾向にあるものの、今後、近隣市でも道の駅を開駅する計画があり、道の駅間の競争が激化すると予想されることから、施設を運営する指定管理者の企業努力が問われる。(商品開発、チラシ配布等の広報、イベントの強化、ネット販売強化等)
今後の取組み	今後周辺施設との競争がますます激しくなると予想されるため、「道の駅しもつま」として独自色を打ち出し、選ばれる道の駅となるよう創意工夫をした運営を心掛けるよう指定管理者に働きかけていく。また、アフターコロナの時代、どうすれば安全を保ちながら、効率的に売上を確保できるかの研究を進める必要がある。



令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	木造住宅耐震化事業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	1	住宅、宅地	建設課
SDGs目標	11	住み続けられるまちづくりを	12	つくる責任つかう責任						建築係

1. 事業の概要(Plan)

目的	木造住宅の耐震診断及び耐震改修を促進し、地震に強いまちづくりを推進する。				
内容	旧耐震基準の木造戸建住宅所有者に対し、木造住宅耐震診断士の派遣を行う。また、新耐震基準に達しない住宅には、耐震設計及び耐震工事に係る費用に対する助成を行う。				
種別	自治事務(任意)	主体	その他	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	木造住宅耐震診断士派遣委託件数	旧耐震基準の木造住宅に対して、耐震診断士の派遣している。	目標	3	3	3	件
			実績	1	0		
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	木造住宅の耐震改修等の件数	木造住宅耐震診断士を派遣した木造住宅のうち耐震改修等に繋がった件数	目標	1	1	1	件
			実績	0	0		

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	5 住宅費	目	1 住宅管理費		
事業費(千円)	R1決算額		R2決算額		R3決算額		R4予算額		R5予定額	R6予定額
総事業費	892		837		0		1,408		1,408	1,408
事業経費	132		77		0		648		648	648
特定財源	0		0		0		0		0	0
従事常勤職員数	0.10		0.10		0.00		0.10		0.10	0.10
従事非常勤職員数	0.00		0.00		0.00		0.00		0.00	0.00
概算人件費	760		760		0		760		760	760

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	大規模な地震が頻発しており、必要性は高い
		対象の適切性	改善の余地あり	事業メニューの拡充
		主体の妥当性	市が推進すべき	政策意志決定が必要なため
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	耐震診断は想定通りであるが、耐震改修が進んでいない
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	高額な工事費等が耐震化が進まない一因
総合評価	費用対効果	効果あり		耐震診断を実施することで、耐震化推進の意識づけができる
	手段の妥当性	見直しの余地あり		社会情勢やニーズを踏まえ見直す必要あり
	事業の方針	継続		現状維持

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	木造住宅耐震診断士派遣事業実施後、耐震改修の必要性ありとの診断結果が出て、改修費用等が高額であること、所有者の高齢で健康面に不安があること、耐震工事の必要性を感じない等の理由での改修、除去、建て替え等がなかなか進まない。
今後の取組み	耐震診断士派遣事業を実施した方に改修助成の案内をしていく。また、改修費用が高額になるため、助成金額の増額や耐震改修に係る専門家の無料相談などきめ細やかな対応が必要

令和4年度 事務事業評価シート(令和2・3年度実績)

事務事業名	道路補修及び除草作業						建設部			
総合計画の体系	目標	5	都市基盤	基本	2	社会基盤	分野	4	市道	建設課
SDGs目標	11	住み続けられるまちづくりを								補修班

1. 事業の概要(Plan)

目的	市管理の道路及び排水路の維持管理				
内容	現場作業班による市道の道路補修及び市道・市管理水路の除草作業				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民・道路利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	要望件数	道路補修等の要望件数	目標	800	800	800	件
		実績	842	852			
成果指標	指標名	説明	年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	単位
	現場作業班による実施件数	要望の内、現場作業員が作業にあたった件数	目標	200	200	200	件
		実績	342	252			

予算科目	区分	一般会計	款	8 土木費	項	2 道路橋梁費	目					
事業費(千円)	R1	決算額	R2	決算額	R3	決算額	R4	予算額	R5	予定額	R6	予定額
総事業費		9,200		9,200		9,200		9,200		9,200		9,200
事業経費		0		0		0		0		0		0
特定財源		0		0		0		0		0		0
従事常勤職員数												
従事非常勤職員数		4.00		4.00		4.00		4.00		4.00		4.00
概算人件費		9,200		9,200		9,200		9,200		9,200		9,200

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	市民生活に大きく影響する
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	迅速な対応を求められる
	有効性	指標の実績	達成できた	想定通りのサービスを提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	人員を減らすと、対応待ちがもっと多くなる
総合評価	費用対効果	効果あり		最小の経費で指標の目標を達成できた
	手段の妥当性	妥当		迅速な対応を求められるため
	事業の方針	継続		現状維持

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	市道・市管理水路の除草作業については、6月から9月に多くの要望があり、職員が体調不良にならないように注意する必要がある。
今後の取組み	各個人の所有地に面する道路・水路の除草については、各個人で出来るだけ行っていたらお願いする。そのための周知や広報について検討する。